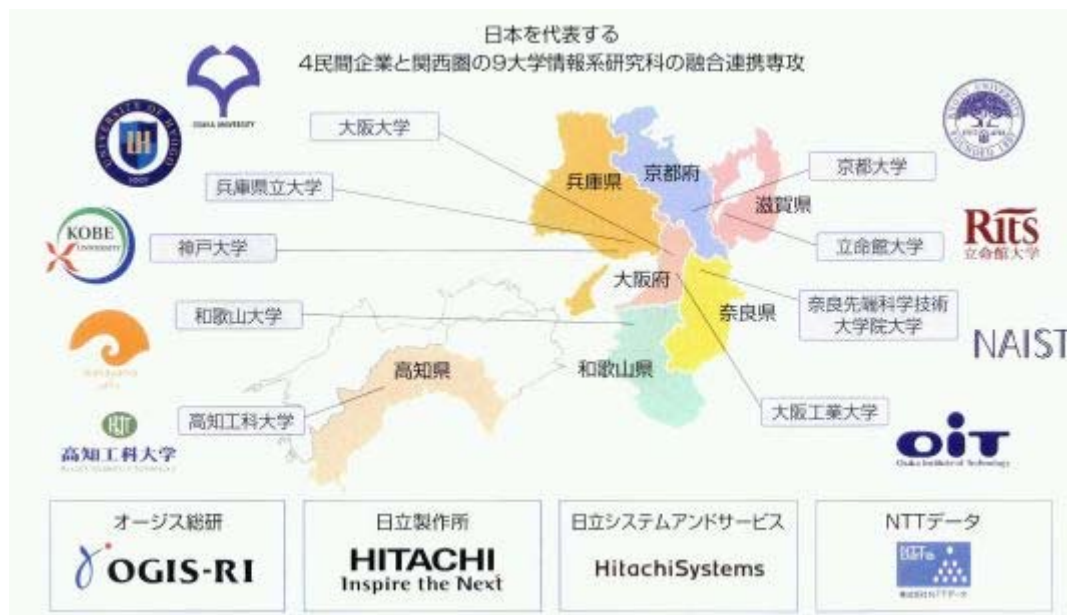


高度ソフトウェア技術者育成プログラム「IT SPIRAL」 2008年度要項(理工学研究科情報理工学専攻)

1. 趣旨・目的

ソフトウェア技術は、家電製品から航空管制システム、金融管理システムなどの社会・産業の基幹システムまで広く用いられており、国民生活を支える社会インフラの基盤となっています。しかし、わたしたちの国ではソフトウェア分野における人材が質・量ともに不足しているとの指摘がなされています。このような社会動向を受けて、立命館大学では、先導的 IT スペシャリストを育成すべく、関西圏の情報系 9 大学院の教員や 4 民間企業の技術者の力を結集して、高度で実践的なソフトウェア工学教育プログラム「IT SPIRAL (IT Specialist Program Initiative for Reality-based Advanced Learning)」(文部科学省：先導的 IT スペシャリスト育成推進プログラム)を 2007 年度より実施しています。それぞれの大学院から選抜された修士課程 1 回生約 35 名について直接的に教育を行う融合連携型専攻を構築するものです。具体的には、①基礎ソフトウェア工学科目群②先端ソフトウェア工学科目群③実践ソフトウェア工学科目群からなる教育プログラムとなっており、ソフトウェア工学に関する基礎的な幅広い知識だけでなく、プログラム開発能力といった実践的な技術の習得を目指しています。また修了時には認定証が発行され、協力企業等での就職にも有利になります。



2. 「IT SPIRAL」プログラム構成

1) 基本ソフトウェア工学科目群

ソフトウェア開発のために必要となる知識を習得する科目群です。理工学研究科で開講されている以下科目が対象となります。授業内容については、オンラインシラバスを参照してください。2008年度はソフトウェア工学特論とシステムプログラム特論は日本語、分散システム特論は英語で開講されますので、注意してください。

科目名	担当者
分散システム特論（英語開講）	丸山 勝久 / 西尾 信彦
システムプログラム特論（日本語開講）	島川 博光 / 高田 秀志
ソフトウェア工学特論（日本語開講）	大西 淳 / 糸賀 裕弥

2) 先端ソフトウェア工学科目群

最先端のソフトウェア工学の関連知識を教授するとともに、その背景となっている理論や理念を教授し、現在のソフトウェア開発環境が変化しても、新たな技術を自ら生み出すことが可能な潜在的に優れた適応力を身に付けさせる科目です。

ソフトウェア工学の最先端技術に詳しい研究者・教育者が所属する各大学院において、各教員の専門分野を中心として SWEBOK の各知識領域をカバーしたテーマに関して、授業を記録した教材コンテンツ（1種類につき5回分の講義）を作成します。これらの中から、プログラムコーディネーターが定める履修モデルに基づいて、15回分の講義（3種類）を1セットの先端ソフトウェア工学科目として構成し、2セットを履修します。立命館大学では、以下の先端ソフトウェア工学 I, II が設定されています。

a) 先端ソフトウェア工学 I

- エンピリカルソフトウェア工学(奈良先端科学技術大学提供)
- アジャイルソフトウェア工学(奈良先端科学技術大学提供)
- ソフトウェア保守(大阪大学提供)

b) 先端ソフトウェア工学 II

- モデル中心ソフトウェア開発(京都大学提供)
- 組込みソフトウェア設計論(兵庫県立大学提供)
- コンポーネント/パターン指向ソフトウェア開発(立命館大学提供)

3) 実践ソフトウェア開発科目群

ソフトウェア開発の高い技術力を有し、多くの開発プロジェクトに関する知見を蓄積している(株)日立製作所、(株)日立システムアンドサービス、(株)オージス総研、(株)NTTデータの4社により、実践的なソフトウェア開発の講義・演習を行います。これらの講義・演習では、SWEBOKの全知識領域について、実プロジェクト教材を用います。

講義および演習は、大阪大学中ノ島センターに2週間に一度、受講学生全員を集めて行われます。特に演習では、受講生を小規模グループに分け、複数人で協力してプロジェクトを仕上げます。その際、複数大学院の学生を一つのグループとして、異なる大学院間の交流とプロジェクト推進に必須であるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的としています。なお開発に必要なPCは貸与されます。また交通費も支給されます。

実際に開講される科目は以下の通りです。

種別	科目名
講義	実践プロジェクト管理
	実践ソフトウェア開発論

演習	実践ソフトウェア開発演習
----	--------------

3. プログラム修了要件

「IT SPIRAL」は、以下3種類の科目群から構成されています。以下の必要単位を満たせばプログラム修了となり、「修了認定証」が発行されます。

科目群	必要単位
基礎ソフトウェア工学科目群	2科目 4単位
先端ソフトウェア工学科目群	2科目 4単位
実践ソフトウェア開発科目群	3科目 6単位
合計	7科目 14単位

4. 単位認定について

本プログラムで取得した単位は、理工学研究科の修了要件単位として認定されます。

- 分散システム特論 2単位(A+~F)
(後期水曜 3/4 時限予定, 担当: 丸山, 西尾)
- システムプログラム特論 2単位(A+~F)
(後期月曜 7/8 時限予定, 担当: 島川, 高田)
- ソフトウェア工学特論 2単位(A+~F)
(後期火曜 3/4 時限予定, 担当: 大西, 糸賀)
- 特殊講義(固有専門科目)先端ソフトウェア工学 I, II 2単位(A+~F)
(前期・後期, 隔週木・金曜日予定, 担当: 大西, 丸山)
- 実践ソフトウェア開発 2単位(PまたはF)
(前期・後期, 隔週金曜日予定) [大阪大学 中ノ島センター]

5. 募集について

2008年度は、修士(博士前期)課程 1回生あるいは2回生 5名の受講生を募集します。所定の申込用紙に記入の上、2008年2月29日までに情報理工学部事務室に提出してください。

応募条件:

- ソフトウェア工学, ソフトウェア仕様化技法, ソフトウェア開発管理, オブジェクト指向論, オブジェクト指向言語といった一連のソフトウェア工学科目群を履修済であることが望ましい
- プログラム開発ができること
- 1年間実践ソフトウェア工学科目を履修できること

選考方法: 上記の条件をはじめとし、ソフトウェア関連科目に関する基礎知識、ソフトウェア開発経験、本プロジェクトへの参加熱意などを考慮して選考する

以上